

Q9：先生方の研修をどのように進めていけばよいですか？

A：英語活動は、学級担任が中心となって進めることが最も望ましいと思われます。しかし、不安を抱いて取り組んでいる先生方も少なくありません。少しでも自信をもって取り組めるようにするためには、校内の英語担当者が主となり校内研修を行いながら、「英語活動は楽しい」という雰囲気をつくることが大切です。

校内研修には次のようなものが考えられます。このような研修とともに、日常的に授業の進め方等をお互いに交流することも指導力を高める研修となります。

1 定期的に行う研修

英語担当者が教師役となり、その他の教師は児童役となって、実際に児童が行う活動を行います。活動を通して、教師が活動の中でどのような英語を使うと円滑に進められるのかを学んだり、活動の善し悪しについて考え、よりよい活動へと改善を図ったりすることができます。また、活動のバリエーションを増やすことにもつながります。ALTを交えて、教室英語を紹介してもらうのもよいでしょう。

週1回の職員打ち合わせの際や、月1回の職員会の時など、全員が揃うことのできる時に歌やゲームの紹介など短時間でもできるメニューを考え、実践するのも効果的です。

2 長期休業中に行う研修

長期休業中に外部講師を招き、一日あるいは数日にわたって集中的に行う方法もあります。こうした集中的な研修により、活動や指導方法の工夫について学ぶことができます。

3 ALTとの打ち合わせ

英語活動についてALTと行う打ち合わせも、短時間であっても貴重な研修の場です。ALTに任せるのではなく、ALTのよさを生かしながら、共に活動を進める気持ちで、指導計画を基にししながら、行いたい活動を伝え合い、理解し合って活動に臨むとよいでしょう。

4 全校研究会・学年研究会等での研修

英語活動の授業を実際に見合っ、研修することは大変重要です。年に少なくとも1回は、「このようにやっていきましょう」という一つの見本となるものを参観し、共通理解することが必要です。

また、これらの機会に英語活動の具体的な授業を通して、その学校としての基本的な考え方や目標を確認し合っ、活動の質を高めていくことも期待できます。

5 先進校視察や他校の授業参観を通じた研修

先進校の英語活動を参観することは、活動のアイデアを得たり、自校の活動を客観的に見たりする機会となり、効果的です。視察後、参観者は必ず視察の成果を校内で報告するようにしましょう。その際、自校の目標に照らして、どのような指導や活動を自校の実践に生かすことができるかについて職員間で考えることにより、指導の充実を図ることができます。また、英語活動が郡市教科研などに位置付いているような場合も、研修の成果を校内に報告することを大切にしたいものです。